

## 通信技術の進歩に寄与する学生論文特集の発行にあたって



通信技術の進歩に寄与する学生論文特集編集委員会

委員長 山崎 憲一

進歩という言葉には「歩」という字が含まれているように、技術の進歩はまさに一步一步の積み重ねである。近年のICT技術の進展は華々しいが、それらは一朝一夕になるものではなく、個々の技術の改良・改善の賜物であるといえよう。

学生諸君の研究活動も多くの場合、大会発表、研究会発表を積み上げて、最後に論文発表をするというパターンで歩みを進めているのではないだろうか。しかし、この最後の一步である論文発表はなかなか高い壁であり、その手前で停滞しているという場合もあるかと思う。

この学生研究者のための特集は、その最後の一步の後押しをしようと和文論文誌編集委員会が2009年度から企画したものであり、今年度でちょうど10回目となる。今回もこれまで同様、特集テーマとして技術分野を絞ることなく広く通信技術全般を対象として論文を募集した。

本特集に投稿された論文数は論文14編、レター3編であり、厳正なる審査の結果、最終的に論文9編、レター1編を採録とした。投稿件数は数年前に比して多いとはいえないものの、採録率は比較的高いものとなった。またうれしいことに今回は特に優秀な論文が多

く、編集委員会での十分な議論の結果、優秀論文賞を2編に授与することとなった。和文論文誌BのWeb (<http://www.ieice.org/cs/jpn/JB/>) 上で受賞論文を発表しているので御確認頂きたい。

最後に、御投稿頂いた著者の方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、ならびに事務局の方々に深く感謝する。判定にあたっては、査読結果通知を受け取る経験がまだ少ない学生研究者のために、通知内容が明確となるよう、査読委員と担当編集委員には御尽力頂いた。改めて感謝する次第である。本特集が、論文文化の一步を進めるための契機となり、そして今後も学生諸君が技術の進歩に寄与してくれることを願って結びとする。

やまざき けんいち  
山崎 憲一（正員：シニア会員） 昭59東北大・工卒。昭61同大大学院修士課程了。同年日本電信電話入社。平12よりNTTドコモ。平22より現職。プログラミング言語、OS、記号処理計算機、形態素解析、ユビキタスコンピューティングの研究に従事。現在、芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授。博士（工学）。平29本会通信ソサイエティ功労顕彰状受賞。平27より平29まで本会通信ソサイエティ和文論文誌編集委員長。ACM、IEEE、情報処理学会、人工知能学会各会員。

